

# 認知症声掛け訓練

目的	地域住民に認知症に対して理解を深め、地域の支えがあれば認知症状のある人も地域で暮らしていける事を伝えていく事を目的とする。	
開催にあたっての経緯	同地域ではコロナ禍以前には 2 回声掛け訓練を実施している。最近になり認知症高齢者の増加に伴い団地内で警察に保護される方が増えてきていると民生委員や自治会長からの話があった為、コロナで開催できなかった声掛け訓練を再開する事とした。	
実行メンバー	あんしんケアセンター天台、千草台団地自治会、千草台団地管理サービス事務所	
実施地域	稲毛区千草台	
開催日時	令和 5 年 5 月 13 日 (土)	
参加者数	63 名	(内訳) 地域住民 34 人、スタッフ 24 人、センター職員 5 人

開催までの流れ		
5 年 2 月 7 日	千草台公民館にて打ち合わせ	自治会長、センター職員 3 名
5 年 3 月 10 日		UR より共催開催の申し出、自治会と共に共催とする
5 年 3 月 13 日	センター内 3 職種ミーティング	UR 担当者との打ち合わせと役割分担
5 年 4 月		ポスター貼り、スタッフ募集の案内開始
5 年 4 月 20 日	自治会館にて最終打ち合わせ	自治会長、UR 管理事務所、センター職員 2 名
5 年 5 月 13 日	自治会館にて	声掛け訓練実施
5 年 6 月 27 日	自治会館にて	地域ケア会議にて訓練の振り返りを実施

必要物品及び入手先
(例：拡声器：●●小学校から借りる)
テーブル、イス、プロジェクター、マイク (UR 管理事務所準備)
認知症サポーター養成講座用 DVD、ピブス、どこシル伝言板の QR コード (千葉市包括ケア推進課より借りる)
声掛け訓練のぼり (社会福祉協議会稲毛区事務所より借りる)
名簿、チラシ、当日配布資料、アンケート (センターにて準備)

開催当日の流れ		
8:30	会場準備・受付開始	センター職員、UR 管理事務所
9:00	認知症サポーター養成講座	終了後どこシル伝言板の説明を実施
9:45	ボランティアスタッフ受付	別会場で受付、打ち合わせ開始
10:00	認知症声掛け訓練	グループワーク用に会場セッティング
11:00	グループディスカッション	千葉北警察より高齢者保護についての講義
12:00	終了	記念撮影後各自解散

## 開催風景

認知症サポーター養成講座



記念撮影



声掛け訓練スタート



グループワーク



## 課題・反省

- ・自治会やU Rと共催で行った事で多くの住民が参加してくれた。今後も関係機関と協力していきたい。
- ・事前に自治会やU Rと打ち合わせを行い、単なる認知症声掛け訓練ではなく、認知症の人も支えがあれば地域で暮らしていくことが出来るといった地域共生社会の実現に向けた取り組みの一つであることを理解して頂く事が出来た。
- ・認知症サポーター養成講座でも、認知症当事者の気持ちについて伝える場面を設け、とても印象に残ったと受講した方からのアンケート結果を頂くことが出来た。
- ・千葉北警察署にはかなり早い段階から活動の趣旨を伝え参加要請をしていたが、なかなか返答が無く事前打ち合わせを行うことが出来なかった。前日に1人か2人参加できるといった返答があったのみだったが、当日は生活安全課だけではなく移動交番や地域課の方も来てくれて有意義な話を聞くことが出来た。ただし、事前に移動交番が来る事が分かっていたら、声掛け訓練に取り入れるなどもう少し訓練のやり方に工夫が出来たと思う為、残念だった。
- ・認知症役や案内役を居宅支援事業所のケアマネジャーや生活支援コーディネーターに依頼、過去に何回か参加しているスタッフもおりスムーズに行えた。主任ケアマネジャーも地域作りを担う役割がある為、今後も居宅支援事業所のケアマネジャーが積極的に地域と関わる事が出来るような取り組みを行ってきたい。
- ・訓練から約一か月後に地域ケア会議にて振り返りを実施、アンケートの集計結果を報告した。今後も継続して訓練を行いたいと言った意見が多く見られたため、次年度以降も継続して訓練を繰り返していく事とする。